



12
881
33



三月の事

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

冷泉院の御元服の御禮三年二月廿八日十四日某也
皇代紀より云々
兼也御元服を廿九日此御下は云々
泉院の三月の例を撰せり

やうして御元服の御禮三年二月廿八日十四日某也
入国もは云々
へ兼り終へ云々

正月の御元服の御禮三年二月廿八日十四日某也
云々

大御元服の御禮三年二月廿八日十四日某也
兼也御元服を廿九日此御下は云々
泉院の三月の例を撰せり

大御元服の御禮三年二月廿八日十四日某也

兼也御元服を廿九日此御下は云々
泉院の三月の例を撰せり

兼也御元服を廿九日此御下は云々
泉院の三月の例を撰せり

兼也御元服を廿九日此御下は云々
泉院の三月の例を撰せり

兼也御元服を廿九日此御下は云々
泉院の三月の例を撰せり

いりるも終にうらましく焼物と何をも行ふ也

こくくはくくくくくくく 第六巻下下下下下下

寺カキ此事とくく

りくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

河カガノラス鐵曰

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

也又梅花とまうくくくくくくくくくくくく

びくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

の張イヤヒうくくくくくくくくくくくくくくくく

大業タイセウとくくくくくくくくくくくくくくく

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

字れ張あるくくくく河海くくくく張くくくく

昭ササヒの石イシ子コりくくくく後又王と張あをくくく

とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

書たりくくくくくくくくくくくくくくくく

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

大皇オホミカド元年トシ号ナくくくくくくくくくくくく

のくくく 昇ノボ同 細 仁ニ天アメ宮ミヤ也

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

昇ノボ同

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

もくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

此より度敷と云ふことと云はるる也常より云ふ
 としそのわや云ふを多へし 花太の記加料尚書
 謂放虫志南而母屋之也河海云麻布張也
 度母屋南北中央の妻戸箇之正理障子之妻戸也
 或以障子以南より放お以北の内方より放お中
 蓋の事之時撥之次東放西放也云の度母屋
 尖東西各有度母屋之東對西對也度母屋之間有透
 後度母屋對屋張之時東西梅公卿在子平中
 東放出といふ西准之物結る東東を云みまの
 乃ありれどもわらひてはむしうをさうをさう
 みまののひさしを結る又云の東ありし西の放
 出は許すことと云ふこと二の對りて度母屋

女房此房より又云度母屋なるありてとまの之
 ららと云ふてんのかたてをりした物結るはつら
 六条代のことと云ふこと放おん南西れ母屋と云
 たりそのおのりめらひてと云ふ西對の放おと云
 梅もれまの東れ中の放おと云東對の母屋也中と
 云ハ母屋と東西の障と乃月障子と云と云と云
 八の焼地合終下六条代の東れ對のありてと云源氏
 の事とは時度母屋よりなれわりて合終より
 見たりたり是ハ西對の放おより合終上乃のりも結
 下といふ事なり又若菜ありし西の放おと云と云西對
 の放お也と云これと云のりも結るはつらと云
 也六条代ありし對屋二ありと云たり 辨花より

いれて揚員と云ふのなまこりなり

うらまをれはこめあふくしとおくの終り 某原のうら

しく白の浅原の揚員育ふことな終りは秋をさふ

きいた也

人の内わやまをたれはあゝそひんあり 細 ちよ地也

とん原の浅原れくし終り也

りつこあをぬまへりあふぬ人わまこあふ也

そらまゆたそり人らうとまりあふ也

終りもとさめり 某原のうら一終り人用とさゆた

のちとたり

うらまをれはこめあふくし終りあふ也 某原のうら

一終り地なれらのうらあふもさううたり也

うらまをれはこめあふくし終りあふぬ人のうらと

うらまをれはこめあふくし終りあふぬ人

某原のうらたきに種く候者く也 此の字は

傍也一合終 細 終り也

五くれはこめあふくし終りあふぬ人のうらと

と 細 ちよ地のうらまをぬまへりあふぬ人

とをき終りくし終り也

うらまをれはこめあふくし終りあふぬ人 某加減とさ終

りん乃候也

さゆはれの中日あふもさううらまをぬまへりあふぬ人

らうりはらとをさあふ地なれ終り 某ちよ地也

はまらぬ梅の花をぬまへりあふぬ人のうらと

某ちよ地也 細 某のうら也

細 権

伊蒙はる候也 某侍の事は事とていふは云々
しつと終るる人

細 伊と宮とれる也

そ事なれども其く一りを以て其く一りを以てけりある
伊と宮 某源と多於郷宮と結合し終也

細 権也

おろし梅の枝よりつきたるありて其より 何ら
日記云記し乃山は信々人の焼物とていふは信々

信々ありしは信々梅花の事なれり
伊と宮とれる也

見給ま

まことなる事跡あり梅花たる事なるを枝よりの事
もやとていふは信々何れなる事やううこれとて

事なる人々とわくは也わくは也 細 源の事なる

事也 某の事跡へ源氏なる事なる事なる事なる事
宮に事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

伊と宮とれる也 細 源也

いふ事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事
事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

信つと事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事
事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

源氏権者へ意地の事なる事なる事なる事なる事なる事
事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

伊と宮とれる也 細 源也
事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

況乃事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事
事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

五

まことお警るるといふはさうさうとていふ人こそやうにあり
ひびくはまじしとてゆゑに世のこゝろあはれんと也

ひと見みくられん 某 是ハ源乃内角之これいふ事とよかん
くさひゆと也と卑下しての語也 阿 醜 素寐云枕思と

解事也

うさげ人あさうさうさうさう 細 源乃卑下れ親也いぬ
作君うさうさうとんあうられ他人ハさうさうさうとて腰ゆ

ひのさけねへと也 某 非人ともさうさうとあは
中文とあさうさうさうさうさうさうと也

阿 和 人 不 見 白氏文集

中宮まうさうさうさうとてとひびくつ 某 惟美乃内角也
乃いさうさうさうさうさうとていひくつ 阿 和 人 不 見

とありノ并同

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あつらふと何をも終と也 細 梅花海客南都花集
ちよといけり何のい人くも公終人ことく 妙歌
あつらあり

さこれの来蓮院のさうのさき終て 第 乞ハ取平此終のり
りけしる也る事とめさめりううて合さ終也

さんぞこれ朝臣のこもささひはうさう事りし 果その
され一終のうくめさこれあも終と也 公た終也

百歩のゆりちとさひさるもせんあもあううと終さう
あつらふと何をも終と也 果 果ううくあもあ

河 して何をも終と也 果うのさうてと終さう

さうてやんこれ意夜者百歩もさうとくうのくさひ
うさうらうくやうあうと又来蓮院の終の古と集り

来蓮院とあるけさう子終あり何これ終の来蓮院

も寛平此終のさうとさうと終と也 若し物終の来

蓮院とありと終と云はう取平此代合もと終と終と

乃しとらとさう又云公た終也 号カスニホ 号カスニホ 号カスニホ

終と終とさうと意物合好も也と西喜天也と向也大英

公た朝臣終人は小舎人ヤマトツヨナリ和常生おと終と合もと終と

公た朝臣終人は小舎人ヤマトツヨナリ和常生おと終と合もと終と

公た朝臣終人は小舎人ヤマトツヨナリ和常生おと終と合もと終と

公た朝臣終人は小舎人ヤマトツヨナリ和常生おと終と合もと終と

公た朝臣終人は小舎人ヤマトツヨナリ和常生おと終と合もと終と

公た朝臣終人は小舎人ヤマトツヨナリ和常生おと終と合もと終と

公た朝臣終人は小舎人ヤマトツヨナリ和常生おと終と合もと終と

公た朝臣終人は小舎人ヤマトツヨナリ和常生おと終と合もと終と

公た朝臣終人は小舎人ヤマトツヨナリ和常生おと終と合もと終と

のいざよひ也 花よの宿は二月十日とありつ河海一と
物とつるおきしなり

わがみこちちまのりてむし物結ちし結ひぬるは乃
新あくは成る乃ら結のりまことしるはく花のきよ
つしきん 某焼物の批判をてし結遊り也

おしこれららむしひしは自ひみちる人の世しちらと
まんあり 某屋乃あしりまきりてうりし也

吾人此乃くも 細 古乗流のなれ也 乃 古居あしり也
るし 河 吾人亦屋下あり 昇 古乗流の吾人此也

某 抄政実白乃あしりもけりもい古乗流乃たるんし
何をれ結あしり乃らありし 某 吾人亦しり意也
乃乃結遊のきりしとし結也 細 結意也乃は遊何

るんしと也

清くもはらうるもて度と人ありあましりありて
わらうと常乃ねとせやあうちのあゆまれは中お弁かお
るもし河 吾れお夜来とハ結も桂つまるしとるしり
母ハ後物名也 筆ハうらうらうらハ此の物也と結也
もあしりありつ又お色はらうれしんせあり

おしんちちらむしりまうらうらあまも結もはしりも
と 某 吾結意也乃はれはあり行也は身も結もらうら
て退也 行もは遊のきりしとし結也 乃ハ此の物也と結也
もあしりありつ又お色はらうれしんせあり

宮の結前よりいし 某 昔のつら也

おしはらうれ結をまうて中おうらし行りてたわら
はうらむしちちらむしりあしりし中も 某 ありしと
結意也の結うらむしりしと也

中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、

細

中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、
中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、

宰相の中よ

中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、
中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、
中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、

細

中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、

中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、
中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、

細

中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、
中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、
中の中よきまゝのつらさにて、宰相の中より、

と又も人へいさへあらねども 養ふ人へいさへ
ついにわかれしとていさへいさへ

わくも西のちとていさへの時よりいさへ ねの伸る屋也
果 ちなる中にいさへいさへいさへのはるなる 養ふ人へいさへ
いさへいさへいさへいさへ

宮にわたりしとていさへいさへいさへいさへ 花 鳥 對
いさへいさへいさへいさへいさへいさへいさへ 并 細 田
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ

いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ

いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ

いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ

いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ

いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ

いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ
いさへいさへのいさへいさへいさへいさへいさへいさへ

海

三十一

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

第百一十卷

宮にいらのまらけの事ある申はさしこれゆめちあひい
まらけそゆめあひあ 某どのくある申はさしそのたの
ありとあひさかたを申さたれども也

うらたきやうはく乃姫君たちをいかにあひいあひい
あしとあひの事 某可成姫君らとあひあひあひあひ
遠逝とていさるる也

清きりの事 某源氏姫君乃入内侍也
はさくしとあひさかため給るさうとあひいさうとあひい
某姫君乃入内の事とあひいあひいあひいあひい

此の事とあひいあひいあひいあひいあひいあひい
右大臣乃入の事とあひいあひいあひい 某藤原乃入
梅乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入

同を別れ是の事とあひいあひいあひいあひいあひい
とあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひい

此の事とあひいあひいあひいあひいあひいあひい
はさくしとあひいあひいあひいあひいあひいあひい

更長乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入
とあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひい

宮中乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入
とあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひい

相懸乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入乃入
とあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひいあひい

如何 細 何よりして也よ古とらわらむとせむ也
何 或人乃年よりして也

如くも少よりして也いふ一はらむに 某 源の想ひ給へ
今乃能み也 何 今乃能み也 何 今乃能み也 何 今乃能み也
今乃能み也 何 今乃能み也 何 今乃能み也 何 今乃能み也

ことと大なる事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

中々の事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

いふ事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

いふ事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

いふ事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

いふ事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

いふ事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

いふ事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

いふ事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

いふ事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

いふ事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり
事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり 何 事なり

系 海の中宮へ去りて果てしむるは息子の事此後ぞ
と前より始りてはるしとてかたあやうく行りんと也

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど 系 姑好中宮の事よむる

は息子の事よむるはたわづらふ事なれど 系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど 系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど 系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど 系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど 系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど 系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど 系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど 系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

系 夫の事よむるはたわづらふ事なれど

果 ちとやうにやうたるやせめてあまめしきとて一紙う
けくしとてまら也 何より藤紙

これのころもあつた人へくらんとて 果物このころ
る人の心と保氏から病をいふて也

宰相中納言の宮に志保内のおはちのこ中納言と
り 果々又式了の嫡子志保也とて常式了の
のこ思のこ也 志保もあつた人へ 細 公事此
先也

りててとてとていふをとの路へこれいふよ
色あり 河草行歌 果このころもあつた
果よめとていふとていふとていふとていふ
果よめとていふとていふとていふとていふ
るよりありあつてあつた人へも 花はてり也

果のあつたのころもあつた人へもあつた人へ
くしとてとていふとていふとていふとていふ
此神の傳の果よりいふとていふとていふ

果のころもあつた人へもあつた人へもあつた
果のころもあつた人へもあつた人へもあつた
果のころもあつた人へもあつた人へもあつた
果のころもあつた人へもあつた人へもあつた

果のころもあつた人へもあつた人へもあつた
果のころもあつた人へもあつた人へもあつた
果のころもあつた人へもあつた人へもあつた

果のころもあつた人へもあつた人へもあつた
果のころもあつた人へもあつた人へもあつた
果のころもあつた人へもあつた人へもあつた

はきつていふはむらじつらもさるる一はいふてはひの終へらうは乃
のまげさにならういふことごとくせ終へるやうらういふまを終

細
源乃約

彼ははらうしよもさしてわらう終へる也なりやうは終えられ
し細双紙也さうらう持参ある也 案考るるまゝのさうらう終
やらういふとたうとまゝもさるる事とせ終也

細
不悪也源乃終りあそまゝもさるる也 案考ればこれ

能事いふとさうらういふとまゝもさるる事とせ終也
也又いふとくは面白う終へる事とせ終也

案考るるさうらういふとまゝもさるる事とせ終也
はらういふと 案考ればあつたぬもさるる也

うらういふとたうらういふとまゝもさるる事とせ終也
案考るる事とせ終也

さうらういふとさうらういふとまゝもさるる事とせ終也
るる也さうらういふとまゝもさるる事とせ終也

案考るる事とせ終也
案考るる事とせ終也

細
案考るる事とせ終也
案考るる事とせ終也

わらういふとさうらういふとまゝもさるる事とせ終也
はらういふとさうらういふとまゝもさるる事とせ終也

案考るる事とせ終也
案考るる事とせ終也

案考るる事とせ終也
案考るる事とせ終也

案考るる事とせ終也
案考るる事とせ終也

てあるよう一説有之但少くは物あると古と云り

河 兼業集女老を或は伊氏撰之有況云万葉抄は兼業

之撰之と云は伊氏の撰也兼略云

正喜の撰の乃古今和考集と云 是れ乃古氏下撰也

多る和考集を刊したる震第も亦あるやうに云ふ事

と云は伊氏の撰也 是れ兼業の撰也

行む也相惠帝と云是れ伊氏撰也

伊氏撰也又伊氏撰也

うのあささくは云々云々云々云々云々云々云々云々

乃古云 兼地のうらと伊氏云々云々云々云々云々

是れ乃古の撰也

乃古と和秘抄又乃古たり 河 唐清源紙幣表紙の

乃古云 乃古云々云々云々云々云々云々云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

乃古の事云々云々

の事

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

海

日













Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written on the right page of an open book. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature and fading. It appears to be organized into several lines, possibly representing items or entries. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper.



